

韓国社に資本参加

マグネテック
ジャパン

磁気応用製品 中国合弁経営も主導

【川越】マグネテックジャパン（MJ、埼玉県所沢市、物集高彦社長、04・2948・9995）は、製販の日中韓3極体制を確立する。韓国ウーソンの子会社である韓国WSM（釜山市）に資本参加し、2月1日付でWSM社長にMJの荻田富美幸取締役本部長が就任。中国では、合弁会社の北京中日磁石科技の社長に荻田氏が2月にも就任する。中韓の合弁会社の経営をMJ主導で進め、磁力応用製品の市場開拓を加速させる。

以上は渡り技術協定などを結び、技術供与を行ってきた。近年、ウーソンは韓国鉄鋼大手ポスコのリフティングマグネットシステムなどを一括受注したほか、ロシアやアフリカなどの新興国でも受注攻勢を強めている。また、韓国政府が仁川空港周辺で進めるリニア線車両用電磁石としても大口受注が見込まれる（物集社長）という。

WSMへの出資は1月で約10%の資本参加。今後、WSMにはウーソンが行ってきたこれら有望事業分野製品の製販を移管する。また、MJが得意とする磁力異物除去・検査装置市場の開拓を韓国の食品プラント向けなどに行う考え。中古のリフティングマグネット向けオーバーホール需要も見込む。

WSMは2012年3月期に20億円の売上高を見込む。3年以内には韓国の株式市場への上場を目指す。一方でウーソンはマグネット汎用部品などの製販に事業を特化する考え。北京中日磁石科技は、中国政府機関の中国農業機械化科学研究院と折半出資で約2年前に設立。年商は約1億2000万円。荻田氏の社長就任により「労務管理体制などを整備し、装置生産性の向上を目指す」（物集社長）としている。